令和７年度　決算の概要と決算に対する討論（要旨）

令和７年度 各会計歳入歳出決算

会計名		予算現額	歳入 決算額	歳出 決算額
一般会計		3,045億1,665万4,000円	3,057億5,572万5,279円	2,891億643万8,841円
特別会計	国民健康保険事業	544億5,000万円	539億4,786万8,452円	529億7,503万4,383円
	介護保険事業	498億7,000万円	500億6,827万3,420円	491億2,182万8,185円
	後期高齢者医療事業	152億1,900万円	152億5,167万8,527円	151億5,313万4,302円
	東武東上線連続立体化事業	10億8,049万8,000円	10億8,965万2,510円	9億9,410万6,023円

共産党　反対　一般会計、４特別会計

区民生活を支える公共の役割こそ、自治体に求められる使命

- ●区民生活の厳しさへの認識が不十分であり、実態に即した対応となっていない。
- ●No.１実現プランに基づく財政執行は、区民負担を増やし福祉を後退させる結果となった。
- ●公共施設の整備計画において、総量抑制の考えのもとで集約・複合化が優先され、区民の要望が退けられている。
- ●大規模な市街地再開発事業は、住民への説明責任を果たさず強行し、住民を追い出し、「まち壊し」につながっている。
- ●「学校をなくさないで」という声に背を向ける姿勢が、教育施策の歪（ひず）みを生み出している。
- ●基金の積立てだけを最優先している姿勢は、区民の理解を得られるものではない。

自民党　賛成　一般会計、４特別会計

７年度までに築いた土台を礎に新たな基本構想に描いた10年後の姿へつなげ、「東京で一番住みたくなるまち」の実現を

- ●７年度を「父親支援元年」とし、ウェルカムベビー講座などを実施したことを評価する。
- ●戸籍住民課の対話型AIによる電話対応の導入や区民事務所などでのキャッシュレス決済の拡大など、業務効率化の進展を評価する。
- ●「絵本のまち」を子育てや木育、まちづくりなどと幅広く掛け合わせた取組を評価する。
- ●10年後、20年後を見据え、事務事業評価とビルド・アンド・スクラップを徹底し、限られた財源を効果のある施策に重点的に配分を。
- ●不用額と予算流用が生じた原因を分析し、より精度の高い予算編成に努めるべき。
- ●金利が上昇している情勢を踏まえ、財政調整基金など各種基金の効果的な運用を求める。

公明党　賛成　一般会計、４特別会計

未来への投資と財政規律を両立する持続可能な行財政運営を

- ●不登校児童・生徒への新たな支援であるバーチャルフレンドパークは、保護者に寄り添う重要な事業として高く評価する。
- ●介護現場の人材不足に対応するため、ICT化の促進を図り、業務の効率化と平準化を。
- ●いたPay健幸ポイント事業について、さらなる事業の拡大と周知を要望する。
- ●がん患者等アピアランスケア支援事業について、ウィッグなど購入費助成の拡充を評価する。
- ●絵本のまち板橋を推進するため、あらゆる分野で絵本のすばらしさを生かした取組を。
- ●舟渡・新河岸地区における水害対策を目的とした整備は、区民の意見を聞きながら進めていくことを求める。

立憲民主党　賛成　一般会計、４特別会計

健全な収支の均衡に努め、税外収入も含めた自主財源の確保を

- ●水害対策として、災害見舞金の増額や土のうステーションの増設などを求める。
- ●あいキッズによる朝の居場所事業や不登校児の居場所事業の開始を高く評価する。全校への拡大に向けて、安定した人材の確保を。
- ●インフルエンザ予防接種事業は、早期の流行を想定し、助成開始の前倒しなどの検討を。
- ●大山町ピッコロ・スクエア周辺地区における区有地の転出補償金である約14億円の一部を大山の活性化のために活用すべき。
- ●公契約条例の施行に向けて、実効性のある制度として定着できるよう、遅滞なく準備を。
- ●第10期介護保険事業計画では、準備基金を最大限取り崩し、保険料の上昇を抑制すべき。

いたばし未来　賛成　一般会計、４特別会計

住民との対話を重ね、互いに歩み寄りながら進める地域づくりを

- ●育児支援ヘルパーや産後ドゥーラの利用料の一部負担軽減を評価する。今後は相談から利用までを円滑につなげる真のDXを求める。
- ●子どもワークショップは、子どもたちがまちづくりに参加していると実感できる取組を。
- ●地域福祉コーディネーターや民生・児童委員などは、それぞれの役割を生かし、ともに対応できる体制づくりを。
- ●ブランド戦略は、区の魅力発信とともに、人とつながる機会の創出を。
- ●在宅避難者にも必要な情報や物資、支援が届く体制整備を求める。
- ●大山における再開発事業は、住民の意向を丁寧に受け止め、責任を持って取り組むべき。

コモンズ　賛成　一般会計、４特別会計

区民に対し、積み上げた財源を早く、確実に届ける区政を

- ●喫煙マナー指導員の拡充や公衆喫煙所の整備など、路上喫煙対策を力強く推進すべき。
- ●いたばし区民生活応援事業は、物価高に苦しむ区民に対する施策として評価するが、手法や執行の適切性には議論の余地がある。
- ●ＡＩとデジタルの活用により生まれた時間を区民と向き合う時間に振り向けるべき。
- ●ケースワーカーや保健師、障がい福祉の担当職員など、業務量に応じた適切な配置を。
- ●グリーンホール施設再整備における障がい者福祉センター機能の整備については、当事者の声を直接聞く機会を設けるべき。
- ●災害ボランティアの重要性を認識し、区の防災施策の中に位置付けるよう求める。